

## 2 校内が手を携えて（ＳＣ等を生かす）

### (1) 手を携えて

校内の連携・共通理解という特別なことと考えてしまいがちです。自校の教育相談推進のために、改めて、以下のような点を確認したいものです。

- 日ごろから、教師間の人間関係づくりを心がける。
- 休み時間等に、児童生徒の話題を取り上げたり、情報を交換したりする。
- 共通理解では、まず教員一人一人の多様な考え方・見方を認め合った上で、実際の取り組みは、同一步調で当たることを基本にする。
- 「一人に任せない、一人で抱え込まない」（何かあったらすぐに誰かに話をする）を基本にする。
- 連携の組織（チーム）は、日ごろの多忙な現実から、担任をサポートする考えで担任プラス一人を基本にする。
- 管理職自ら、何でも話し合える雰囲気づくりをする。

### (2) スクールカウンセラー（ＳＣ）、心の教室相談員を生かす

学校内におけるスクールカウンセラー（ＳＣ）、心の教室相談員等を特別な存在ととらえていませんか。配置校では、これらの人材を十分活用するために、以下のような点に留意したいものです。

- 職員室に机を配置する等、校内組織の一員として受け入れられやすいようにする。
- 休み時間等に、教師の方から話題を投げかけ、交流できる雰囲気づくりをする。
- ＳＣの多くは、臨床心理の専門家ではあっても、学校教育の専門家ではない。教師がＳＣの助言を児童生徒の対応に生かすことを基本にする。
- ＳＣや心の教室相談員に、児童生徒が取り上げられたと思ったり、任せきってしまったたりすることではない。児童生徒の問題に、多様な側面から、連携してかかわれるようにする。